翻　　訳

アルギュラ・フォン・グルムバッハによる
―ルター派青年擁護のための抗議文
―アルギュラ・フォン・グルムバッハ稿
「インゴルシュタット大学宛ての書簡[1)]」（1523）の翻訳―

伊勢田　奈　緒

1．緒言

ここに翻訳したものは、宗教改革者マルティン・ルターの運動に共鳴し自ら宗教改革運動を実践した16世紀の女性宗教改革者アルギュラ・フォン・グルムバッハによって著された最初の著作である。これは当時、カトリック教会を擁護し続けていたインゴルシュタット大学が同大学のルターに影響された若い講師アルザシウス・ゼーホーファに対して、ルター等福音主義者の教説の撤回を強圧的に迫ったことを、平信徒で一般の主婦であるアルギュラが知り、彼女が勇敢にもこの青年を弁護しようと同大学宛てに痛烈に抗議して書いたものである。アルギュラは1492年、バイエルンの貴族ベルンハルディン・フォン・シュタウフの娘として生まれた。少女時代は当時、度重なる貴族と領邦の君主間の抗争の末、シュタフウフ家が没落したり、また両親がペストで亡くなったりと薄幸な時を過ごした。しかし、15，6歳頃から10年間、バイエルン大公妃クニグンデの女官として仕え、多くの教養を身に付けることができた。1516年にディートフルトを封地としてフリードリヒ・フォン・グルムバッハと結婚したが、他方、彼女はルターの教説に共鳴し、豊かな聖書の知識をもって福音のために闘い、ドイツの宗教改革を支持した女性の一人である。このパンフレットは、1517年にルターが「95カ条の提題」を掲げて宗教改革運動が本格化していく中でその改革がどのように伝播したかを知ることができる一史料であり、また女性もこの運動に実際に参画したという点を示す貴重な資料であると考える。尚、このパンフレットは、アルギュラ支持者による序文[2)]とアルギュラの書簡、最後にアルザシウス・ゼーホーファが糾弾された17カ条と読者への簡単な結びという構成で1523年に発行された。

2．翻訳：「インゴルシュタット大学宛ての書簡」

バイエルンの貴族である、ある女性キリスト者による意見：この公開書簡は、聖なる聖書に基づいた議論によるものであり、一人の福音に従う若者に神の御言葉を否定するように強いたインゴルシュタット大学を批判している。

1）　Wie eyn Christliche//fraw des adels/in Beiern durch//jren jn Gotlicher schrifft/wolgegründ//ten Sendtbrieffe/die hohenschul zu Jngold=stat/vmb das sie einen Euangelischen Jung//ling/zu wydersprecchung des wort//Gottes betragt haben//straffet. (Nürnberg: Friedrich Peypus 1523) 7 Bl.4⁰
尚、翻訳にあたって以下を参考にした。
Matheson, Peter, Argula von Grumbach. A Woman's Voice in the Reformation, Edinburgh 1995, pp.56-95
Matheson, Peter(ed.), Arugula von Grumbach: Shriften, Heidelberg, 2010, pp.63-75, 162-164

2）　序文を書いたのは、ルター派神学者であるオジアンダー（1498－1552）の全集に入っていることからオジアンダーであるとされてきたが、バルタザール・フープマイアー（1485－1528）、エーバリン・ヨーハン（1465－1533）であるという説もあり、はっきりしないが、三人ともアルギュラと親交がある。

ここには聖母マリアの誕生祭前夜に、ミュンヘンのアルザシウス・ゼーホーファがインゴルシュタット大学の命令で取り消し、否定した条項が追記されている。

インゴルシュッタト　1523年

序文

兄弟達よ、いまこそ、眠りから覚める時である。なぜなら、私たちの救いは、思っているよりも近いからである。だから、私のキリスト信者である読者よ、そして、あなたがたも、－目が見えなくなっていて、激怒しておられ、そして常に聖霊に抵抗し惑わされているあなた方、偽善者たちよ、たとえ、あなた方がキリストの御言葉を信じることを断るとしても、ともかく、神が御言葉を通して達する御業を信じなさい。そしてあなた方のプライドと貪欲と肉欲の大きなマントを脱ぎなさい。

今や、最後の審判の日に、神聖で、救いの御言葉によって、私たちの救い主であるキリストが、聖書を熟知した者たちばかりでなく、多くの者たち―若者も年を取った者も、男性も女性も―の大いなる忠誠、苦しみや、殉教や、死に対して、慈しみ深く驚くほどすばらしい方法で（教会の初めに起こったことのように)、私たちをなぐさめ強めたことを見て理解しなさい。また、彼等を迫害した者たちに、屈辱的な大混乱をもたらすのを見て理解しなさい。

出エジプト記のファラオのように、あなた方の心が冷淡で、非常にならないように。あなた方が手のつけられていないままではないように。「というのは、もし、子達がものを言わないなら、」「石が叫びだすであろう」と、ルカによる福音書19章に述べているように。そして、「これより後、私は全ての人に私の霊をそそぐ。そして、あなた方の息子や娘は預言する。彼らは知恵の言葉を語る。僕である男女にも、私の霊をそそぐ。そして、私は天と地に奇跡を行う。主の日、大いなる恐るべき日が来る前に。」とヨエル書２章にあるように。

今や、多くの者が、この救いに気づきなさい。ところで冒頭で述べた女性については、ここで、再現される、彼女の公開書簡からわかる。彼女は聖なる福音を迫害したインゴルシュタット大学の聖書学者たちを（ユデト書の８章の、偽預言者たちのように）批判し、そして、かけがえのない神聖なる著作を引用しながら、福音を彼らに熱心に勧め、導いている。（このことは、信じられないことであり、女性にはまれなことであり、全く、私たちの時代には前代未聞のことである。）おまけに、その書簡の中で、彼女は実際、聖書学者たちの眼前に現れ、また彼らに質問されようとしたことがわかる。彼女の著作が神の霊から出ており、他のものから導かれたものではないことが、このことから分かる。さらに、エステル記４章の、ちょうど、人々を救うために、エステルが死と破滅に直面した時のように、彼女もまた、その時、神聖な言葉の多くの擁護者達に押し付けられるぞっとするような罰に対して、キリスト者の先導者であることを辞めなかったのである。聖なるスザンナのように（ダニエル書13章)、彼女は、神に反し、真実について黙して罪を犯すよりも、彼女がなすことのために男性に捕えられることの方を選んだのである。そして、私たちは、これらの非常に横柄、且つ力あるキリストの敵である者達が一掃されるように、ユデト書９章に言われているが、すなわち、「主よ、もし一人の女性の支配によって彼らを負かすなら、貴方の名は誉められるであろう」と神に祈るべきなのである。そして、私たちは聖なるゼカリアとともに「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。主は、その民を訪ねて、解放した。」と高らかに喜び歌おうではないか。

続いて、これより**序で述べてきたその女性キリスト者の書簡となる。彼女の名は最後に見出される。**

ヨハネによる福音書12章で主が言われました。「私を信じる者がだれも暗闇の中に留まることのないように、私は光として世にきた。」と。私は、この光が私たち全ての中に住み着き、また冷淡で見る目のない全て者の心を照らすことを、心から願います。アーメン。

私は、マタイによる福音書10章のテキストの、「他の人の前で、私に告白する者は誰も、私も、天の父の前でその人を私の仲間であると告白する。」また、ルカによる福音書９章の、「私と私の言葉を恥じる者はみな、私が栄光に輝いて来るときにその者を恥じる。」などのような御言葉は、神の口から出ているのであって、常に、私の目の前にあります。というのは、御言葉は女性も男性も排除しないからです。

そして、これは、私がキリスト者として、あなた方に手紙を書かざるを得なかった理由です。というのは、エゼキエル書33章に「もしあなたが貴方の兄弟の罪を見て、彼を非難するなら、私は彼の血の責任を貴方の手に求める。」そして、マタイによる福音書12章で「聖霊に反対する罪は、決して忘れられない、今も、永遠も許されない。」そして、ヨハネによる福音書６章で「私の言葉は霊であり命である・・・。」と主が言われるからです。

神の名において、あなた方が神の言葉に反対してこのような愚かな暴力を用いるとき、また、あなたがたがアルザシウス・ゼーホーファの事件においてなさったように、だれかに、それを否定する目的のために、彼等の手に、聖なる聖書を持つことを強いらせて、いったい、どうしてあなた方やあなた方の大学は首尾よくいったと思うのでしょうか？あなた方は、彼に対して、このような誓いや宣言をさせて立ち向かい、キリストと彼の言葉を否定させるために投獄と火刑の恐ろしさを用いたのです。

確かに、私がこのことについて省察する時、本当に私の心と手足は震えました。ルターやあるいは、メランヒトンはあなた方に、神の言葉以外何を教えてくれたのでしょうか？皆さんは、彼らと論駁することをしないで、彼らを非難なさいます。キリストは、あなた方に、そのように教えられたのでしょうか。あるいは、使徒達、預言者、福音書記者がそのように教えたのでしょうか？私にそのように書かれたところを示してください。立派な学者である皆さん、あなた方は聖書の中に、キリストや使徒達や預言者たちが、だれかを牢屋に入れたり、彼らを焼いたり、殺害したり、あるいは、追放したりしたという箇所を見つけることができますか。皆さんはマタイによる福音書10章で主が「あなたがたの身体を奪う者を恐れるな、その者の力は終わりになるから。しかし、魂も身体も地獄で滅ぼすことができる者を恐れなさい。」と言われたことをご存じないのでしょうか？

誰でも、権威に従う義務は大切なことだと十分に知っています。しかし、神の御言葉が関するところは、使徒言行録４章、５章で明白であるように、教皇も皇帝も統治者達も管轄権を持っています。私としては、神の名と私の魂の救いによって、もし私がルターやメランヒトンの著作を否定するなら、私は神と神の言葉を否定することになるでしょう。そして、このことは、永久に神を禁ずることになるでしょうが、私はそうしたことを告白しなければなりません。

あなた方はエレミヤ書の第１章を読んだことはないのでしょうか？そこで、主はエレミヤに言っています。「貴方はなにが見えますか？」彼は言った。「アーモンドの枝が見えます。」主は言われた。「あなたは正しく見ている。というのは、私は私の言葉を成し遂げようと休みなく警戒しているので。」と。神は彼に再び尋ねた。「何かほかに見えるか？」と。「煮えたぎるなべが見えます。そして、真夜中から神の顔が見えます。」と。主は言われた。「あなたは正しく見てきた。というのは、真夜中から、あらゆる悪がこの地に住む全ての者に現れるであろう。」と。なべは煮えたぎっています。そして、真実にあなた方とあなた方の大学はそれを消さないでしょう。そして、教皇教令を用いる教皇も、キリスト者ではなかったアリストテレスも、あなた方もそれを決してしようとはしないでしょう。皆さんが、神に反抗し、天から神の預言者や使徒達を引きずり下ろし、この世から彼らを追い払うことを想像してみてください。このことは、起こってはならないことです。私は皆さんに、そして私の愛する者たちに、彼が留まれるようにお願いしたいです。神は聖なる祝福された御言葉を保持しておられる

故に、このことについて私は疑いを持ちません。彼が今まで明らかにしてきたように、神は旧新約聖書においてなしてきたことを、今も、これからも続けてなさることでしょう。

神は、ホセア書13章で、預言者が言っているようにあなた方を襲うでしょう。すなわち、「彼らは思い上がり、私を忘れる。私はライオンのように道で彼らをねらう。そして、子を奪われたクマのように彼らを襲う。」と述べ、そして、ホセア書６章で、「私は私の口の言葉を持って、滅ぼす。」そして、「災いだ、あなた方には。なぜなら、私に依らないで、あなた方ははかりごとを立てたから。」とイザヤ書30章で述べています。また、エゼキエル書13章には、「災いだ、自分の心のままに預言する者たちである、愚かな者には、彼らは役に立たないことを見て、嘘を教える。彼らは言う。私が何も語らす、彼らを許さないとき、『主は言われる。』彼らは一握りの大麦とひとかけらのパンのために、死ぬべきではない魂を殺し、生きるべきでない魂を生かしている。そして、彼らは私の民に嘘を言い、それで、民は彼等の嘘を信じる。」とあります。そして、エゼキエル書33章で神はいったい何と言っておられるでしょうか？「主の警告は、罰せられるまでは、彼らには美しい詩のようであった。なぜなら、彼らは、一人の預言者が彼らのうちにいることを知らなかったから。」と、そして、エレミヤ書48章では「神は彼等のあざけりの的になった。あたかも彼等が彼を盗人の中から見つけたかのように。」とあります。

欲はあなた方を捉えてきました。そして、皆さんは、もし、あなた方が教皇教令の発行から得るものがなかったら、喜んで、神の言葉を受け容れたでしょう。福音書というものがその助言者に対して多くの金を稼ぐことはありません。私は、恵みのうちにある記憶の中で私の愛する主人や父が、四行長く助言を受けたために、20グルテン払わなければならなかったことを見てきました。しかし、詩編36篇の中で、ダビデはなんと言っているでしょうか？「若いときにも老いた今も、私は見ていない。主に従う人が捨てられ子孫がパンを乞うのを。」と。私はあなた方に懇願します。神に信頼してください。神は私たちを見捨てません。マタイによる福音書10章で言っていますように、神はあなた方の髪の毛までも一本残らず数えていて気にかけておられます。私は聖母マリアの教会において、教皇教令の説教者が「ケッチェル、ケッチェル」「異端者、異端者」と叫んでいるのを何年も聴かなければなりませんでした。なんと、下手なラテン語でしょう！私は大学へ行っていませんが、疑いもなく、その程度なら言えます。しかし、もしも、彼等が彼らの言い分を証明したいのであれば、もっと改善しなければならないでしょう。私は、彼に書面にて、福音書の忠実な働き手であるマルティン・ルター氏が異端の説を教えたことになっていることを私に示すように求め続けるつもりです。

しかしながら、私はこれまで自分の気持ちを抑えていました。私は打ち沈んで、何もしませんでした。なぜなら、テモテへの手紙一２章で、パウロが「女性は黙っているべきで、また、教会内では話してはならない。」と言っているからで私はその言葉に束縛されていました。他方、私が上記で述べましたように、「私に告白する者は誰でも」と喜んで語ってくれる誰かを、あるいは、語ることができるか誰を、見つけることができませんでした。そして、私は聖書の中から、自分のすべき糸口を見つけようとし、イザヤ書３章の「私は彼等の統治者にするために子供達を送りたい。そして、女性に彼らを支配させよう。」、イザヤ書29章の、「誤った者達は、彼等の心の中で、知ることを得、つぶやく者たちは法を学ぶであろう。」や、エゼキエル書20章の、「私は手を挙げて、彼らに反対して、彼らを撒き散らした。彼らは決して私の裁きに従わず、彼らは私の命令を退け、また、彼等の目は、彼等の父祖の偶像に目を引かれた。だから、私は彼らに命令を与え、良いものを与えなかった。そして、彼らは決して生きることができないという裁きを与えた。」という言葉を見つけました。そして、詩編８編の「貴方は、子供や乳飲み子の口によって、貴方の敵のために、ほめることを定めてきました。」、また、

ルカによる福音書10章の、「イエスは聖霊によって、喜んで、言われた。『父よ、私は貴方に感謝します。あなたが、知恵ある者からこれらのものを隠し、小さな者にそれらをあらわしました。』」や、エレミヤ書３章の、「彼らはすべて、小さい者から大きい者まで、私を知るであろう。」という言葉も心の琴線に触れました。また、ヨハネによる福音書６章や、イザヤ書54章の、「彼らは皆、神について教えを受けるであろう。」、またコリントの信徒への手紙―12章のパウロの「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言えない。」や、マタイによる福音書16章でペテロの告白について、主が「人間があなたにこのことをあらわしたのではなく、私の天の父があらわしたのだ。」という御言葉も見つけました。

皆さんは、この御言葉をお聞きになりましたか?これらの御言葉を人間ではなく、私たちに与えてくださる神が理解されるというのですか？パウロがコリントの信徒への手紙―２章で「あなた方の信仰は人間の知恵によってではないのです。」と語っているように、皆さんは、教皇の法によって、私たちを力で抑えることはできませんし、全くそうできないのです。エレミヤ書23章にありますように、私たちは、神の命令なしに、法を作る権利を持っていません。しかしながら、神の命令のすべてを含んでいる書である聖書に基づいている所では、私たちはそれを受け入れることを快く思います。しかし、そうではない所では、それは、私たちに全く合法的ではないのです。あるいは、導かれるまでは、弱く、愚かであった私の兄弟を容赦するのが私の勤めなのです。というのは、神が、申命記４章で「あなたたちは、わたしが命じる言葉に何一つ加えることも、減らすこともしてはならない。」と、箴言30章においても、「御言葉に付け加えようとしてはならない。責められて偽る者と断罪されることのないように。」と述べているからです。私たちが次のことを気付く前に、「神の言葉は、神に信頼を寄せる者はみな、それは盾になる。」と、イザヤとエレミヤは「私が貴方に言う言葉は、私の口から、宣言するものである。」と述べています。

もし、神の勧告や御言葉からではなく、彼ら自身の頭で法を作り出すとしたら、いったい、律法者や代表者はどのように神の言葉に耐えられるのでしょうか？主は、マタイによる福音書15章で、彼らに「偽善者たちよ、あなた方はあなた方のペテンのために、神の命令をむなしくしてきた。」と言っています。そして、私は人間の戒めによって、神をあがめるとしたら、それは、むなしいことであると断言します。また、ルカによる福音書11章に、「律法に専門家であるあなた方は、災いなるかな。あなた方は人には背負いきれない重荷を負わせながら、自分では指一本もその重荷に触れようとしないから。」とあります。また、その同じ章の後で「あなたがた律法の専門家たちは不幸だ。あなた方は、自分自身が入らないばかりでなく、入ろうとする人々をも妨げてきた。知識の鍵を持っているあなた方は、天の王国に鍵を閉めているのだ。」とあります。マタイによる福音書24章の「もし、邪悪な僕が仲間を殴り始めていて、その僕の主人が予想しない日、思いがけない時に帰ってきて、彼を厳しく罰し、偽善者達と同じ目に遭わせる。そこで泣き喚いて歯軋りするだろう。」と主が言われているのをお聴きください。どうか、神は私たち全てを守ったおられることを忘れないでください。

私は皆さんがそそのかし、遺憾ながら、だましてこられた諸侯等に心を向けます。というのは、私は彼らが聖なる聖書について、十分に知らせられていないことに、気付いたからです。もし、彼等が他の仕事から時間を割くことができましたら、彼らも神の御言葉を超える力を発揮する権利をもつ者はいないという真実に気付くことと思います。まさに、誰であれ、人間はそれを超える者はいないのです。実に、神の御言葉だけが、唯一、―造られる物はないということはなく、―支配されるべきなのです。いえ、支配されなければならないのです。

もし、信仰を強制することができるのなら、どうして、すべての不信仰者に対してこれまで、信仰へと導いてこなかったのでしょうか？

難しいのは、それが生身の人間の言葉ではなく、私たちに教えなければならない神の言葉であるということです。皆さん方に強制的に命じられた宣誓をしたかわいい坊やである文学修士、アルザシウス・ゼーホーファとともにいかなる名声も決して得ることはないでしょう。というのは、あなた方が一つのことを忘れていたからです。それは、彼がただの18歳の若者で、未だ、子供であるということです。そしてほんの短時間で他の場所からこのニュースが私の耳に入ってきたという点から、あなた方のことはもう世の中に周知の出来事になっていることを覚えておかなければならないでしょう。

諸侯たちは、あなた方のそのような行為に何か、得るものがあったのでしょうか？この出来事は、あなた方の中の貧しい者たちに、富を与えるという、諸侯たちの寛大な行為に対する返礼なのでしょうか？どのようにして、あなた方は彼らを納得させるのですか？なぜ、あなた方は、彼らが創設し、正当に称賛されてきたあなた方のこの大学を世の笑い種にするのでしょうか？ああ、彼等があなた方にしてきた、良きことに対する報いは、なんと忠実で寛大なことでしょう！それに対して、あなた方はよくもまあ、やれるものですね！

そのことについてですが、彼等はもうまもなく、あなた方の、邪悪で悪意に気付くようになることは、確かなことです。神は彼等が真に理解するようになさるでしょう。私はそのことを、心から祈ります。なぜなら、彼らは私の父祖の地の諸侯達であり、また、私はその諸侯に仕えていた貴族であった父と母、そしてまた慈悲深い紳士淑女たちの下で、しばらく育てられ、そして、彼等の豊かな暮らしや敬虔なる信仰心を知っているからです。神は、いつか、そして、永遠に、彼等にお報いになられることでしょう。

私の心を彼等、諸侯に向けます。というのは、何が起こっているかを彼らに告げるのに非常に誠実な者がいないからです。そして私は、彼等が敬愛されているのは、彼ら自身に対してよりもむしろ、彼等が持っている富に対してであることが分かりました。様々な仕事に忙殺され、彼らは座るひまも自分のために読む暇さえ持っていないのです。私は彼らに手紙を書く用意をしています。彼らに、主が、ルカによる福音書10章で「神の言葉に聞くことが一番大事なことだ。」と言われるように、神の御言葉以上に必要不可欠なものはないのだと伝えようと思います。また、ルカによる福音書９章に、「人は、たとえ、全世界を手に入れたとしても、自分の魂を失っては、何の得があろうか？」という言葉も伝えます。しかしながら、彼らは皆さんを聖書学者として、信頼しています。そのことが彼等が皆さんを任命した理由です。そして、その目的のために皆さんは土地や彼等の貧しい臣民の生活費からかなりの額を得ておられます。大学は、大きな成果を目指し、親達によって設立され、非常な費用を使って維持、運営されてきました。

諸侯等が真実を知れば、彼等は今、ゼーホーファが取り扱われているようには、あなた方の要求に基づいて行動を続けたりはしないでしょう。そして彼が宣誓させられた時のように、彼を殺すようにという許可をしなかったと強く確信しています。神が彼等に永遠に報いてくださいますように。私は全てのことがうまくいくよう希望します。彼等がどのように指示をするか、だれも知りません。

このことに疑いを持ってはなりません。神が、神を三度否定したペトロを赦されたように、アルザシウスについても、慈愛をもって赦し、これから先を導いていかれるでしょう。なぜなら、毎日、人は七回転び、そして再び自分の足で起き上がるからです。神は罪人の死を望むのではなく、その人の回心と命を望まれるのです。主であるキリストご自身、死を恐れられます。神は多くの血を流されて苦しまれました。神はこの若者に対して、善いものをたくさん見ていらっしゃることを信じます。主を否定した後、良き働きをした、あのペトロのように。しかしながら、このペトロと違って、今でも彼は自由で、長く投獄されたりせず、火刑の脅威にも苦しまなかったのです。

人が聖書ではなく力を用いて、議論すると

き、論争は簡単に説き伏せられます。私が見る限り、最も学識のある方々が、絞首刑執行人であることがわかります。しかし、悪魔がこのすごい喧喧囂囂の論争に関わってきたことも簡単に分かります。神は決してあなた方のやり方に我慢はなさいません。コリントの信徒への手紙Ⅱ11章で、パウロは「悪魔は光の天使を装う。」と言っています。ですから、詐欺師たちがキリストの使徒を装うことは不思議ではありません。マタイによる福音書10章を思い出してください。「敵対しなければならない。父に対する息子、母に対する娘、義母に対する嫁、そして人の僕たちは人の敵になるであろう。」とあります。また、ヨハネによる福音書16章では、「彼等があなた方を殺し、彼等が神に奉仕していると考える時が来るであろう。というのは、彼等がこういうことをするのは、父をも私をも知らないからである。」と、そして、パウロはコリントの信徒への手紙Ⅰ11章では、「争いは起こるに違いない。それは、適任者をはっきりさせるために。」とあり、また、コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章では、「もし、福音におおいが掛かっているとするなら、それは、滅びの道をたどる者たちに対して覆われているのです。」とあります。

3月6日に発行された帝国の命令を遵守することは、なんとすばらしい方法でしょう！そこでは、福音は、キリスト者の教会によって認められてきた教師達とともに、神が命令されてきたように、説き明かされることは、全く明白なことですから。ローマ・カトリック教会にいかなることも言われることはありません。私は、このローマ教会について述べられたものを、聖書の中で、一言も見つけることができません。皆さんがもし、神がローマ教会について述べられていることを私に示してくださるなら、うれしいのですが。私は今まで迫害されてきた聖人たちの歴史を読みました。この歴史が良かったと言えるでしょうか？気付いてください！
神に良きことがありますように。

ゼーホーファがマルティンによる原典新約聖書のドイツ語訳を否定しなければならなかったことをあなた方は恥じないのですか？このことは、聖なる福音書と使徒たちの書簡などを皆、あなた方によって異端として簡単に片付けられたことを意味しています。これでは、あなた方との適切な討論を望めないように思われます。それから、また、これからルターが発行しようとしているモーセ五書があります。このことはとるに取らないことなのでしょうか？あの一人のユダヤ人と討論するよりも、より易しく、より有益なことでしょうか。私は、アルザシウスの審問において、聖書から一節もあなたがたが論駁したということは聞いていません。私が聞いているのは、一人の学識のある法律家が彼のところに進みより、「君はなぜ、泣いていたのですか？君は異端者ではないのですか？」と尋ねたということだけです。しかし、裁判所の一連の判決はここでは価値がないのです。

私は、説教壇から帝国の命令が公けに読み上げられ来たる会議の履行が召集されたら、あなた方、学者のつまらない口論は中止するのだと思ってきました。ゼーホーファ事件の全容は、私には、はっきりしませんが、今まで、だれもルターの教説の内容を心配した者はいませんでしたし、聖職者たちのことも心配していないようです。もしも、彼らの内で、ともかく詩編を読む者があれば、そのことは意味があるものとなるでしょう。

私には非難されるべきところをどこにも発見することができません。ディートフルトの人々は、信仰と永遠の救いに関するこの大きな問題において、ルターたちが説き明かし導いてきたその方法に、大いに喜ぶべきなのです。私は、そのことを大学は非難してきたことを知っています。特に、この教区や地域における皆さんは！おそらく、一般に人は堂々と、公言することができないのだと思います。

私は皆さんに、神のために、懇願します。そして、あなた方に、あなた方が異端として見なしている、マルティンやあるいは、メランヒトンによって書かれた著作は、神の裁きと正義を私に語り熱心に説いています。彼らのドイツ語の著述が異端であるように思われません。そして、実際、多くの著述はドイツ

で多く出版され、私はそれをすべて読んできました。シュパラティーン[3)]は私にルターの著作の全タイトルのリストを送ってきました。私は常に真実を見つけたかったのです。しかし最近、私はルターのものを読んでいなかったのです。というのは、私は、ルターの作品全部が直接、私たちに読むように導いている聖書のことで頭をいっぱいにしてきたからであります。貴族であった私の愛する父は、私に聖書を読むことを主張して、10歳の時にそれを私に贈ってくれました。残念ながら私は、以前有名だった聖職者たち、特に、私が邪道に導かれていると言ったフランシスコ会修道士によってそそのかされていた父に従いませんでした。

ああ、しかし、神の霊が私たちを導き、次のテキストからまた次のテキストへと理解させ、―神は誉めたたえられよ！―そうして、私は真に光が輝いているものを見ることができるようになったことは、なんとうれしいことでしょう。私は、もし主が私に恵みを与えてくださるなら、私の才能を葬り去ろうとは思いません。ルカによる福音書７章でキリストが「福音は貧しい人に告げ知らされている。私につまずかない者は祝福されよ。」とあります。コリントの信徒への手紙Ⅰ９章でパウロが「私の力を濫用しないように、私はありのままの福音を説き明かします。」、「私は世に再び輝く光であるあなたに心から語ります。」と言っています。そして詩編118篇では、「あなたの言葉が暴露されるとき、光が射してきて、低い者にも理解を与えます。」とあり、詩編36篇では、「命の泉は貴方にあり、貴方の光に、私たちは光を見る。」、ヨハネによる福音書２章には「神は人間いついて誰からも証ししてもらう必要がない。つまり、彼は何が人間の心の中にあるかをご存知だからである。」とあります。また、ヨハネによる福音書14章では「私は道であり、真理であり、命である。だれも、私を通らなければ、父のもとに行くことができない。」とあり、ヨハネによる福音書９章で主は「私はこの世をさばくために来た。こうして、見えないものは見えるようになり、見える者は、見えないようにさせられる。ファリサイ派の者たちは、尋ねた。『それでは、私たちは見えないということか？』と。主は「あなた方が見えなかったのであれば、罪はなかったであろうに。しかし、あなた方は『私たちは見えている』と言っている。」だから、あなた方の罪はある。』」と、そして『私の言葉に留まる者はだれでも、私の弟子である。』と言われました。また、同じ章で「神に属する者は神の言葉を聞く。あなた方がそれを聞かないのは、神に属していないからである。」とあります。そしてまた、ヨハネによる福音書10章では、「私の小さな羊は私の声を知っているが、見知らない人の声を彼らは知らないので、彼らはその人についていかない。」とあり、マタイによる福音書24章では、「天地は滅びる。しかし、私の言葉は決して滅びない。」と、イザヤ書40章では「神の言葉は永遠に立つ。」とあります。

今や、私は、コリントの信徒への手紙Ⅱ１章で、「神の約束の言葉は、どんな「否」も除いた「然り」なのです。」や、「この言葉から天と地、万物はみな、作られたのであって、言葉によらずに作られたものは何もない。」とヨハネによる福音書１章で言われているような約束を人間の約束や、教皇の法や発言から見いだすことはできません。神は、御言葉によって、死んだ者を生き返らせ、罪人を回心させ、目が見えないものは見えるようにならせ、足の不自由な者は真っ直ぐに立つようにさせ、耳が聞こえない者は話せるようにさせます。」。聖書は、教皇教令のような「金のためのわな」ではなく、「救済の宝庫」なのです。そのことを通して私たちの命はマタイによる福音書４章やヨハネによる福音書６章にあるように約束されるのです。

私はエレミヤ書22章のエレミヤと共に「大地よ、大地よ、大地よ。主の言葉を聞け。」

3）　シュパラティーン（Spaltin,Georg 1484-1545）は1516年以来、宮廷顧問官として教会と大学の問題を担当し、ルター、メランヒトンと共に大学改革に当たった。1525年牧師となり28年アルテンブルクの教区長となった。領邦君主統合の新しい教会組織の形成に尽力、ザクセン教会と学校を熱心に巡回した。

と叫びます。もし皆さんが、私が間違っているとお考えなら、私はそれに気付いていませんが、返事をお願いします。聖ヒエロニムスも多くの女性たちに、たとえば、ブレジラ、パウラ、オイシュトキウム等に手紙を書くことを恥じませんでした。そしてまさに私たち全ての教師であるキリストご自身でさえも、マグダラのマリアや若い女性に説き明かすことを恥じなかったのですから。

私は喜んで皆さんの前に出ます。皆さんと議論することにしりごみは致しません。というのは、神の恵みによって、私は、ドイツ語で疑問を尋ね、答えを聞き、読むことができるからです。マルティンが翻訳したのではないドイツ語の聖書も持っています。あなた方自身は、ルター訳が決して考えられていなかった41年前に印刷された聖書ならお持ちでしょう。

もし、神がそれを定めなかったら、私は他の者たちと同様に振る舞い、「それは神の御心に反している」として彼が聖書を誤用していると書いたり、言ったりしていたかもしれません。しかし、私は、さらに、聖書をドイツ語に翻訳することに匹敵する人のものを読む必要はありますけれども・・。彼を用いて働いておられる神が相応しい時に、そして永遠の時の中においても、彼に報いてくださいますように。そして、―そのことは神が守ってくださるはずですが、―ルターが自分の見解を取り消すはずになったとしても、心配はいたしません。私は、建築家たちが拒否してきたことを、いかなる人の理解もあてにすることなく、私の土台を真の岩であるキリストご自身を理解することに基づいて建てています。しかし、コリントの信徒への手紙Ⅰ３章でパウロは、「キリストという既に据えられている土台を無視して、他の土台を据えることはできません」と言っているように、私は土台の石、隅の親石を築いてきました。

神は私が私たちの三人の諸侯と共同体全体の前で、あなた方と語ることを許されます。私が全ての人に、事件が開示されるように望みます。哲学は全く役に立ちません。パウロがコロサイの信徒への手紙２章で「哲学や世の中のことに賢明である者の高尚な話に注意しなさい。」また、コリントの信徒への手紙Ⅰ１章で、「神は世の知恵を愚かなものにされたのではないか？」と、コリントの信徒への手紙Ⅰ３章で、「この世の知恵の全ては、神には愚かなものである。」と言っているように。

裁判所の一連の判決は、私を害することはできません。というのは、それは役に立たないからです。私はその判決の中に神聖な神学を認めることはできないのですから。だから、私は、暴力、投獄、火刑によってではなく、書くことによって皆さんが私に指示なさりたいのでしたら、私自身はなにも恐れません。ヨエル書２章で「再び向きなさい。主に立ち返りなさい。なぜなら、神はやさしく、憐れみ深いから。」とあります。主はエレミヤ２章の中で「生ける水の源である私を捨てて、水をためることのできないこわれた水ためを掘った。」と悲しんでおられます。

コリントの信徒への手紙Ⅰ２章のパウロの言葉によれば「私は、信じる者にとって神の救いの力である、福音を恥としない。」とあり、マタイによる福音書10章で主は「あなたが引き渡されたとき、何を言おうかと心配してはならない。語るのはあなたではないのである。同時に、あなたは言わなければならないことを示されるであろう。そして、あなた方の父の霊が、あなたを通して語ってくださるのである。」と言われています。

私はラテン語を知りません。しかし皆さんは生まれ育ったところで使っているドイツ語を知っておられます。私があなた方に書いてきたことは、女性の無駄話ではなく、神の言葉です。そして、私は、キリスト者の教会の一員として訴えたいのです。地獄の門もこの教会に勝つことはできません。ローマ教会に反対して、この教会は優勢なのです。この教会を見なさい。どうして、それが地獄の門に対して勝つことができるのかを？神は私たちに恵みを与えてくださり、そして、私たちを救い、神の御心に従って、神が私たちを支配してくださいますように。どうか、神の恵みがその日に実行されますように。アーメン。

ディートフルト。聖十字架称賛の日の後の日曜日。主の年。1523年。
署名
アルギュラ・フォン・グルムバッハ
旧姓　フォン・シュタウフ

敬虔で、尊敬すべき、良き家柄の、学識のある、気高い貴族であるインゴルシュタット大学の学長と評議委員会の皆様へ。

1523年の聖マリアの誕生祭に

文学修士、ミュンヘンのアルサシウス・ゼーホーファは、反キリストのインゴルシュタット大学の学長と評議委員会によって、次の条項を教えていたことで異端であると糾弾された。

第一条
私たちの義認には信仰のみで十分である。
第二条
神の正しさは、生来のものである。神は良い御業にもかかわらず、身代わりによって人の罪を負われる。
第三条
人はいかなる称賛に値する行為によっても義認は得られない。
第四条
義を為すのは神お一人であり、私たちの側のいかなる努力もなしに、神は聖霊を私たちにそそぐ。
第五条
いかなる行為にも確信をおくべきではない。
第六条
良い実りもないままの信仰はない。
第七条
聖書は、人の働きのために与えられる報いについて人は信仰によって救われると理解すべきだと言う。
第八条
行為によって義とされると思い込む者たちは、岩ではなく、砂に家を建てる者たちである。
第九条
神の確かな言葉を伝えないなら、その人は教会の中で誰にも信用されない。
第十条
主が教えられたり、命令なさったりしたことを知らないなら、教会において教えられ、なされるべきものはない。
第十一条
司祭が教えることは神の言葉以外、ふさわしいものはない。
第十二条
神の言葉を教える者たちは司祭である。
第十三条
妻と離婚する者は、別の人と結婚する権利を持つ。同様に、離婚した妻は別の人と結婚してよい。ただし、最初の結婚の別れが罪あるものである時のみである。
第十四条
人は神の名誉や隣人が必要としている以外、誓ってはならない。
第十五条
世俗的な者のために誓うことはふさわしくない。
第十六条
モーセによって示された律法は人間に可能なこと以上のことを要求する。
第十七条
キリストの福音は、霊的なものではなく、逐語的であるという教えは、コリントの信徒への手紙Ⅱ３章の文字は殺すが、霊は命を与えるという、すなわち、文字はモーセの律法であり、霊は福音の法であるということを意味するという聖パウロの教えと反対である。

アルザシウス・ゼーホーファによる無効にされ否認された条項

ミュンヘンの市民であり、文学修士である、私、アルザシウスは、私が私自身の手で書いたこの書き物によって、私が手に持って告白する聖なる聖書によって、誓い、そして、これによって、名高いインゴルシュッタット大学の学長と評議委員会と大学の全共同体であるあなた方の前で、私自身の口で読み、宣言します。

私は、これまで、ルター派の誤った異端の考えとさまざまな罪に関わっていて、神を冒涜する者と疑われてきました。すなわち、私

はそれを教え、書き、支持するという多くの方法で、広めてきました。また、全力を尽くしてこれらをドイツ語に翻訳してきました。私はその結果、大学の学長や評議委員会に、その罰を待つため、投獄されました。（異端の擁護者達が普通法で罰せられるように）。しかしながら、私は特別な命令と、高貴な生まれの諸侯や貴族達、すなわち、兄弟であり、パラティンの伯爵である、ヴィルヘルム伯やルードヴィッヒ伯という方々の身に余る親切な行為により許されたのです。そして、この恐ろしい罰を取り消してくださいました。もし私が今、わびて告白するなら、私の過ちを無効にすると。

だから、私はこれによって、私のとった講義の中でのフィリップ・メランヒトンの書いた物からこれまで読んできた一切のものを、また、私が話し、あるいは書き、大学の書記によって読んできた他のもの一切も、恐るべき異端で不正行為であったと告白し、また、神聖な教皇や帝国の皇帝や私の最も敬愛する諸侯達による禁令に従って、私は再び、それに固執したり、利用したりしたくは決していたしません。しかし、―敬虔なるキリスト者にふさわしいように―聖なるローマ教会や聖なる評議委員会によって非難され、規定されてきたものをすべて信じ、名誉あるキリスト教の伝統を受け容れ、そして、私たちの親切な諸侯たちによって命じられれば、ここを去り、身も心もエッタル修道院へ行きたいと思います。そして私はルターの思想を読むことも広める望みも持っていません。どうか、全能なる神よ、私を助けたまえ。

恵みと平安のうちにあるキリスト信者である読者へ

見よ、キリスト信者である読者よ。インゴルシュタットの神学者たちの中の目の見えないもの達は、純粋な神の言葉と聖書の御言葉をキリスト信者たちに否定させようとしたばかりでなく、最後の条項で、聖パウロを嘘つきにしたのです。というのは、彼等は彼が、文字によって、モーセの律法と霊によって福音の法を理解していることを言っているからです。その点で、彼自身は、それが法であれ、福音であれ、神は霊であり、一方、文字は書物の中で書くものであり、人間の耳での声であると言っています。しかしながら、霊は私たちの心の中で神が働いているものであり、故に、私たちはその言葉の存在で生き生きとなり、その後、その言葉で養われ、成長し、実を結ぶことを信じるのです。彼等は彼等が言っていることが分かりません。彼等は、彼ら自身、まだ福音が何かを学ぶべきだと世に公表しているのですから。

神の平安があなた方とともにありますように。アーメン。